

---

## 平城遷都1300年記念対談(完全版)

# 奈良の街と人と企業の在り方

保険総合研究所 オーナー

東大寺 第220世別当

保険総合研究所 代表取締役

清岡 正教 × 北河原公敬師 × 清岡 義教



---

*HOKEN SOKEN*

株式会社保険総合研究所®

特別対談 VOL.1 2011年1月発行

清岡 正教 × 北河原公敬師 × 清岡 義教

平城遷都1300年記念対談(完全版)

～奈良の街と人と企業の在り方～

清岡(代表):今年、平城遷都1300年ということもあり、奈良の街が大いに賑わいました。奈良のシンボルとも言える東大寺さんも1300年近い歴史をお持ちですね。

北河原:東大寺そのものは、聖武天皇と光明皇后お二人のお力によってできたお寺と言われています。

今年は光明皇后が亡くなられて1250年、聖武天皇はその4年前にご逝去されましたが、それほど歴史のあるお寺と考えていただいてよいと思います。

今日を迎える間には、それこそ存続が危ぶまれるような事態が何度もありました。一つは源平の戦いの時、平家の焼き討ちに合い、ほとんどが灰燼に帰しました。復興されたものの、戦国時代の戦乱に巻き込まれまた多くの建物が消失しました。幸い、金属でできている大仏様は完全になくなるということがなく、今日もあのお姿を見ることができます。

幾多の危機を乗り越え、何度も修復されて守り継がれてきた東大寺ではありますが、当時の建物や広さがすべて同じなわけではありません。その点が一部残念なところではあります。しかしながら、廃仏毀釈(はいぶつきしゃく)あるいは神仏分離の余波を受けつつも、今日までこられたことは誠に喜ばしいことだと思っております。

清岡(オーナー):東大寺さんは華嚴宗という宗派を名乗っておられますが、どのような教えを説かれているのでしょうか。

北河原:華嚴経では、宇宙には何一つ単独で存在しているものではなく、全て他の物との関わり合い、繋がり、あるいは相互の作用などによって存在していると考えます。これは人間社会でも同じではないでしょうか。我々は両親から生まれて、誰かがつくってくださったお米を食べ、誰かが獲ってくださった魚を食べ、太陽の恵みや空気、水などの恩恵を受けて生かされている。そんなありとあらゆる繋がりがあってはじめて、私たちは生かされているのだということです。聖武天皇の思いにも通じています。

特に最近では殺伐とした事件が多く、骨肉を相争う事件も起きています。そんな時代だからこそ、華嚴の教えをみなさんに知って欲しいのです。

清岡(代表):最近建設された『東大寺総合文化センター』も、華嚴の教えを広めていく役割を担われるのでしょうか。



北河原 公敬師

昭和18年5月9日生まれ(西暦1943年生まれ) 67歳  
昭和43年3月 龍谷大学大学院(国史学)修士課程修了  
昭和44年4月 東大寺学園定時制出向  
(~昭和47年3月まで)  
昭和62年4月 東大寺塔頭中性院住職(現在まで)  
寺務所録事  
平成16年5月 華嚴宗宗務長・東大寺執事長  
平成19年5月 上院院主・東大寺学園理事長  
平成22年5月 華嚴宗管長・東大寺別当(現職)  
神仏霊場会副会長  
関西ホッケー協会会長



## 東大寺大仏殿

北河原:そうですね。宝物の収蔵庫とミュージアム、図書館などとともに、東大寺や華嚴学の研究所なども併設し、研究を進めようと思っております。また、以前からある『金鐘会館』もリニューアルして、うちの若い者が修学旅行生に色々なお話をしてさし上げられるよう計画しています。東大寺にせっかく来ていただいたのですから、ただ大仏様を見て終わりではなく、東大寺のこと、華嚴経のことを知っていただきたいですから。

清岡(オーナー):その研究所では、かつて東大寺さんにあったと言われている100mの七重の塔についても研究されるんでしょうか。

北河原:はい。先人たちが受け継ぎ守ってくださったものは、たとえ宝物類や国宝の文化財でなくてもきちんと管理して保存し、後世の人たちに伝えねばならないと思っております。伽藍の一部でもいいから私たちの時代に復興して、それをまた後世に伝えることが大切なんです。私は以前からそういう思いを持っておりましたが、その中で一番可能性のある復興は何かと探っておりましたところ、七重の塔の話が出てきました。

清岡(オーナー):100mともなると、かなり大きなものですね。

北河原:そうですね。当時は大仏殿の倍の高さがあったと言われていました。東塔、西塔と二つの塔が建っていましたが、現在西塔があった場所のすぐ傍には民家が建っているので、難しいかなと…。東塔は公園の中に位置するので可能性はあるなど。そこで東塔の復興を考えたわけです。とても大変なことです。私の代でももちろんできることではなく、何代にもわたるだろうとは思いますが。

清岡(代表):私も仕事をしていくうえで大切にしているのが人と人の繋がりです。オーナーである父からは、「会ってこそお客様のことが分かる。何かあったら必ずお客様に会いにいきなさい」と言われています。

清岡(オーナー):会社を立ち上げて38年になりますが、若い時はとにかくがむしゃらに働きました。お客さんから連絡をもらえば飛んで行ったものでした。ところが今は、インターネットやメールといったものが発達して会わなくても仕事ができる。それではだめだと思ふんです。特に奈良は人と人の繋がりが濃いですから、まちに根付いた商売をしたいと思っている私としては、直接お客様と会わんことには、と。

親子で引き継ぎをしましたが、これほどしんどいことはないですね。子どもに自分の考えや歴史を引き継ぐことは、ものすごく努力がいるんです。現社長に引き継いで1年、非常

にしんどい時期だと思います。ただ、歴史をつくるというのは一人じゃできない。一種の重みといいますか、やはりどんな大変なことでも守っていかなければならないことがある。それを彼は感じてくれていると思います。

## 「保険総合研究所の『歩み』に間違いはなし」と確信

北河原:我々もある意味サービス業だと思うんですよ。信者さんに対して、観光で参拝に来られる人に対して、いかにきちんと対応していくか。ある一流企業の社長さんがもっとも気をつけているのが、社員の電話対応だとおっしゃっていました。どんなに素晴らしい宣伝を流しても、お客様とじかに接する社員の態度が悪ければ、もともこもないのだと。これは



東大寺でも口を酸っぱくして言っております。「東大寺に来て良かった」「またお参りさせていただこう」という縁を大切にしていきたいと思っています。

清岡(代表):奈良は小さなまちですし、密度の濃い繋がりも生まれやすいと思います。

私は社長になる前、大阪で仕事をしていました。大阪も人情に溢れたまちでしたが、奈良はより、人と人との繋がりが深く感じますね。きちっと仕事をしてお客様と向き合えば、お客様はおのずと評価してくださりますし。これからも自社の利益だけを追いかけるのではなく、「奈良のために何ができるか」ということを考えて、地域の方々と一緒に奈良を盛り上げていける仕事をしていきたいと思っています。

北河原:そう。今の時代、自分の我を通す人が多すぎる。自分さえよければいい、自社だけ儲かればいい。そういう考え方は、ある意味宗教心のなさが引き起こしていると思うのです。小学生が同級生を殺めてしまうなんて事件は、まさにその極みであって、命というのは大切なもので決して冒して

はならないものであると教えられるのは宗教ではないかと私は考えます。小学生を対象に行なったアンケート結果では、7割が死んだら生き返ると思っているんだそうです。もしかしたら殺傷した小学生も生き返ると思ってしまったのかもしれない。宗教的情操教育というものがとても必要だと感じています。



清岡(オーナー):今日の北河原別当のお話を聞いて、私の歩んできた道は間違いではなかったと確信できました。一生懸命やってきた中で、「人との繋がりをもっと大事にしていきたい」という想いは間違いではなかったと。社会貢献について、ずいぶん考えた時期がありました。企業が一生懸命頑張れば利益が出れば、一割か二割は社会貢献をするのが普通なのではないかと思い、少しずつですが個人的にはやっていたんです。総研ファームを始めたのもその一環で、社員全員がそういうことを考えられる組織に育てたいと思っています。

清岡(代表):本当にそう思います。「安心」「信頼」「感動」をモットーとして日々仕事をしておりますが、利益だけを追いかけるのではなく、お客様や奈良のまち、日本、ひいては世界のために何ができるのかを考えて行動すれば、おのずとその先が見えてくることと思います。今日は素敵なお話をありがとうございました。

